

第1回府中市市民協働推進協議会 会議録

- 日時 平成26年6月13日（金）午後2時～3時45分
- 会場 市役所北庁舎3階第1会議室
- 出席者 （委員）
千賀会長、山崎副会長、正満委員、田中委員、戸島委員、
長谷部委員、原委員、村山委員、八木委員、吉井委員
（事務局）
中川市民協働推進本部長、
村越市民活動支援課長兼市民協働推進担当主幹、
岩田市民活動支援課長補佐、板橋市民協働推進担当副主幹、
竹内支援係長、新妻市民協働推進担当主査、佐藤事務職員
（オブザーバー）
松木府中NPO・ボランティア活動センター事務局長
（運営支援事業者）
株式会社ダイナックス都市環境研究所 山本所長、谷口研究員、
江沢研究員
- 欠席者 太田委員、長島委員、山上委員
- 傍聴者 6人
- 議事
- 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 協議会の進め方について
 - (2) 行動計画の検討項目について
 - 3 その他
- 資料
- 1 府中市市民協働推進協議会の開催スケジュール（案）
 - 2 行動計画に関する他都市事例
 - 3 行動計画の検討項目（案）

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第1回府中市市民協働推進協議会を開会いたします。それでは事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本協議会にご出席いただき、ありがとうございます。それでは、事務局から何点かご報告を申し上げます。

本日の出席状況でございますが、太田委員、長島委員、山上委員から欠席とのご連絡をいただいております。

なお、昨年度、社会福祉協議会より、日笠委員が選出されておりましたが、日笠委員の異動に伴い、新たに吉井康之様が選出されましたので、ご報告いたします。

また、事務局の新しい職員をご紹介します。

(※吉井委員、佐藤事務職員より挨拶)

(事務局) では、引き続き、事務局よりご報告を続けさせていただきます。

本日の協議会でございますが、定数13名中10人の委員の皆様に出席をいただいております。したがって、過半数を超えておりますので、本協議会は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが6名の方がいらっしゃっています。傍聴の許可につきまして、本協議会のご判断をいただきたいと思います。

(会長) それでは、委員の皆さんにお諮りします。傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(※「異議なし」の声あり)

(会長) それでは、異議がないということですので、傍聴者の入場を許可いたします。

(※傍聴者入場)

(※入場後)

(※事務局より資料の確認)

(※事務局から、基本方針の策定について報告)

2 議事

(i) 協議会の進め方について

(会長) それでは、これより議題に入りたいと思います。本日の議題は2件です。協議会の進め方について、事務局よりお願いします。

(事務局) 資料1をご覧ください。昨年度、第10回の協議会でお示しいたしましたスケジュール案を、より具体的にしましたものです。今年度につきましては、10月上旬までに最終報告を行わなければならない、昨年以上にタイトなスケジュールでございませうことから、お手元にお配りいたしました、「協議会開催スケジュール」で、今年度の協議会のスケジュールを決定したいと考えております。なお、大変恐縮ではございますが、第2回・第3回協議会のスケジュールにつきましては、職員を交えたワークショップを行うことから、会議室等の関係上、6月30日(月)、7月14日(月)とさせていただきます。なお、4回目以降の日程につきましては、皆様の参加可能な日程を、6月20日(金)までに、事務局まで回答くださいますようお願いいたします。その他、詳細につきましては、今年度、本協議会の運営を支援いただくコンサルタントより説明いたします。

(※ダイナックス都市環境研究所(以下DX)より、挨拶と進め方やスケジュールについて説明)

(DX) 今年度お手伝いをさせていただきます、ダイナックス都市環境研究所です。よろしく願いいたします。

短い期間に7回の協議会を行いますので、中身の濃いものにしたいと思っております。そのために、本日は他都市の事例を交えて、ある程度事例を共有してから進めていきたいと思っております。

協働は全ての業務に関わりますが、時間の制限もあることから、すべての施策について協議会で検討することは難しいので、市民にとって重要と思われるところに重点を絞って検討する、というような考え方でスケジュールを組み立てています。

また、次回から職員を交えたワークショップを2回にかけて行い、その後、計画のたたき台となる「骨子」をまとめ、その後3回の協議会で皆様にご議論いただき、最終的なものにまとめていきたいと思っております。

ワークショップの議題は、本日の議論を踏まえて決めたいと思いま

す。

10月上旬には報告書としてまとめなければなりませんので、後半の協議会の日程もそれを踏まえて決めていただければと思います。

(会長) ありがとうございます。昨年も短い期間でしたが今年はもっと急ぐような感じですね。進め方やスケジュールについて何か質問ありますでしょうか。

(※なしの声あり)

(2) 行動計画の検討項目について

(会長) 続きまして、議題2の行動計画の検討項目について、お願いします。

(事務局) 資料2及び資料3をご覧ください。今年度につきましては、昨年度検討いただきました基本方針の第4章を中心に、ご検討いただきます。詳細につきましては、コンサルタントより、説明いたします。

(※DXより資料2、3を基に行動計画の検討項目について説明)

(DX) 4都市の事例を紹介していますが、それぞれ取り上げ方や重点の置き方が少しずつ違います。府中市として特にこれは盛り込むべきだというような項目がありましたら、ご提案していただき、ワークショップのテーマとして取り上げたいと思います。

(会長) ありがとうございます。

まず質問ですが、4都市の計画の特徴の違いはどこから来るのでしょうか。行政や協議会の違いなのか、コンサルタントの違いなのか、分かれば教えてください。

(DX) はっきりとは分かりませんが、それぞれの都市の特徴や何を重視するかによって計画の作り方が異なっているのではないかと思います。既存の事業をすべて計画に網羅しているところもあれば、重要な項目だけ計画にあげているところもあります。

弊社が係わった裾野市は、大きな企業がいくつかあり従業員も住んでいます。また、小さな都市ですので職員は自治会や消防団などいろいろな地域活動に参加しています。こういう特徴を生かして協働の仕組みを考えようという議論が行われました。そこで企業参加や、職員のボランティア休暇の提案などが計画に盛り込まれています。また、当時協働の担当課がなかったのですが、計画策定の翌年度からすぐに、全職員研修を行ったり、政策研修ということで中堅職員のワークショップ型研修を行ったりしました。

スケジュールを細かく作成しているところもあれば、裾野市の場合は5年間でここまでやるという目標をつくって、まず職員研修や住民研修から着手しようということでスタートしました。

(会長) 既存の制度を変えなくてはいけないものは、どうしたのですか。

(DX) 裾野市ではありませんが、別の都市の事例では、現行の協働と目される事業について、チェックシートで担当セクションに自己評価をしてもらいました。

作成した協働の指針を元に見直すと、地域まつりの実行委員などでは表面上は協働でも、実際は市民団体の名前を入れているだけで、本来の協働とは呼べないということもありました。これを市民団体側にもチェックしてもらい、事業ごとに改善すべきことを洗い出すことができました。

(副会長) スタートの段階で、地域の課題や市民のニーズなどを洗い出してから議論を進めたのでしょうか。

(DX) 安城市や裾野市の計画をみると、まず協働に関するアンケート調査を行っています。協働が必要な領域として、福祉や安全安心などのテーマがあがっています。

協働というのはすべての領域に係わるもので、検討項目のたたき台としてあげた項目は、個別のテーマごとに整理したものではありません。福祉や環境など、具体的なテーマの中でどう協働を進めるかという議論の仕方もあります。

全体に共通する、協働の手法としてどういうことが必要かという観点と、具体的なテーマごとの検討と、両方からの議論が必要です。

(副会長) 地域の課題や市民のニーズは刻々と変わります。本日締め切りの団体アンケート調査が行われているので、その結果に基づいて協議会を進めた方がよいと思います。

他市の事例だけでは、あまりピンと来きません。協働についての市民の理解を深めるためにも、身近な事例を取り上げて欲しいです。アンケート調査に回答した人も、成果を実感できると思います。

またワークショップは、ひとつのテーマで行うのか、防災防犯、循環型社会など部会を設けて行うのか、どちらがいいのでしょうか。

(委員) 4都市の事例はどういう基準で選んだのですか。府中市のような関東の都市がないのが気になります。

(事務局) いろいろなバリエーションを取り上げました。子供にも読みやすいものから、カチッと形式的に作られているものまであります。この他の都市の事例を見ても、行政が作成していることもあり、あま

り大きな差はありませんでした。内容で選定はしていません。

(委員) 「地域課題」という言葉がよく出てきますが、府中市のある地域を指すのか、日本のある地域を指すのかがはっきりしません。

議論はテーマを設けて進めた方が分かりやすいです。

(事務局) 協働全般について議論していただきたいので、「地域課題」という大まかな表現としています。テーマによって、市内のある地域を指すのか、府中市全体を指すのかが変わってきます。ワークショップをすることで、イメージが出来てくるのかなと思っています。

(事務局) 少子高齢化、核家族化によって、以前は地域のつながりで対応できていたことが、できなくなってきたこと、行政だけでは対応できなくなってきたことがあります。地域の課題は様々ありますが、その中で議論を進めていただきたいと思います。

(副会長) 市内38町の高齢化率にも大きな差があるように、地域によって課題も異なります。あるテーマに限定するのではなく、バランスよく網羅できるように考えていかななくてはけません。

(DX) イメージしやすくなると思うので、ここで資料3の説明をさせていただきます。協議会の議論は、どの分野も網羅しなければなりません。ワークショップはテーマを設けて行ってもいいと思います。

(※DXより、資料3の説明)

(DX) ワークショップは、職員を交えたグループに分かれて30～40分くらいを2、3回行う予定です。討論というより、頭にあるアイデアを出していただき、次回のワークショップまでに事務局で整理します。

先程ご意見があったように、福祉、地域活動、安全安心など関心の高いテーマで、グループを分けてもよいかと思います。

(会長) ワークショップの進め方について、ご意見をお願いします。

(委員) やはり、テーマが決まっていた方がやりやすいです。

(会長) 今までのご経験は、どちらのやり方ですか。

(DX) 両方経験があります。まずテーマを決めて行い、その後、政策メニューについて行うという方法もあります。

(副会長) まず、基本的な方向付けのために、資料のように協働全般についてワークショップを行い、その後、具体的な議題・テーマにそって、専門の人に参加してもらいながらワークショップをしてもよいのではないのでしょうか。

- (委員) ワークショップのイメージができないのですが、自分が体験していることを話せばよいのでしょうか。それとも、地域の問題まで理解した上で話す必要があるのでしょうか。
- (DX) ご自身の体験で話していただき、グループで盛り上がるテーマがあればそれでかまいません。結論を出すためのワークショップではなく、こちらで整理するために、自由な意見出しを行っていただきたいと思います。
- (事務局) ワークショップは2回を計画していますが、まずは資料3のような政策メニューについて行っていただくことをあらためてご提案申しあげます。
- (会長) では次回そのように進めることとし、ワークショップをよろしくお願いいたします。

3 その他

(※事務局より、次回協議会を6月30日(月)午後2時から、第3回は7月14日(月)午後2時から、同会議室で開催の告知。)

- (会長) それでは、以上をもちまして、本日の協議会を閉会いたします。お疲れさまでした。